

# 令和7年度市民建設委員会行政視察報告書

1. 視察日程 令和7年10月22日（水）～10月24日（金）

2. 視察先及び項目  
愛知県西尾市  
・観光振興について  
愛知県豊川市  
・インクルーシブ公園について  
岐阜県瑞浪市  
・企業誘致・廃校跡地利用について

3. 視察参加者  
委員長 小笠原 浩  
委員 植原 泰  
委員 大藤 匡文  
委員 大前 寛乗  
同行 鷺岡 宗利（建設経済部長）  
随行 竹崎 敦（議会事務局）

# I. 愛知県西尾市

<人口：169,217人、面積：161.22km<sup>2</sup>>

期日：令和7年10月22日（水）14時00分～

視察項目：観光振興について

## 【視察目的】

愛知県西尾市は、三河湾に面した自然豊かな土地であり、歴史的景観や伝統文化、そして「西尾抹茶」に代表される地域ブランドを有している。今回の視察は、同市が地域資源を生かして観光振興とインバウンド誘致にどのように取り組んでいるかを学び、地域経済活性化に向けた施策の参考とすることを目的として実施した。

## 【説明者】

西尾市 交流共創部 観光文化振興課

## 【視察内容】

### 1. 西尾市の観光について

#### (1) 観光の現状

- ・西尾市においては観光入込客数が令和4年時点で348万人となっており、一度コロナ禍で落ち込んだものの、回復傾向にあり、第2次観光基本計画では450万人を目標としている。

#### (2) 来訪者の分析

- ・令和5年にアンケート調査を実施。市内の観光スポットを訪れた来訪者の中で、訪れたきっかけとして最も割合が高かったものは「以前に訪れたことがあり良かったから」、次いで「友人・知人に薦められたから」「インターネットページから」となっている。前回調査（平成30年）に比べて「以前訪れたことがあり良かったから」が特に高くなっている。
- ・来訪者のうち、87.1%が日帰り、3.7%が西尾市以外での宿泊、8.4%が西尾市内での宿泊となっている。

## 2. 観光振興の取組

### (1) 第2次西尾市観光計画の策定

平成26年3月に西尾市観光基本計画を策定し、「おもてなしの心で迎え入れる 多彩な魅力と活力がつながる観光のまち西尾」を基本理念に、各種観光施策を推進してきた。平成31年に中間見直しを行い、引き続き施策・事業を展開。

令和6年、それまでに蓄積したノウハウを基に、西尾市における観光の意義を認識したうえで、地域資源を最大限に活かし、観光施策を計画的に推進するため第2次西尾市観光基本計画を策定した。

### (2) 基本方針

第2次西尾市観光基本計画では「また訪れたい！新たな深みと広がりに出会うまちにしお」を理念に以下の基本方針を掲げている。

- ①「西尾市に来てよかった！」と言われるそれぞれの観光資源の魅力・深みを向上させる。
- ②「巡りたい、また来たい、ずっと居たい！」と思われる、心に残るコンテンツを展開する。
- ③「こんなことができるんだ！」驚きと関心が沸き立つ観光プロモーションを展開する。
- ④幅広い来訪者を受け入れる来訪基盤を整える。
- ⑤西尾市全体で「おもてなし！」みんなが満足できる受け入れ態勢を整える。

### (3) インバウンド対応について

西尾市では、観光文化振興課を中心に、観光協会、商工会議所、宿泊・飲食事業者などが連携し、行政と民間が一体となった「オール西尾」体制でインバウンド推進を進めている。観光戦略会議を設け、外国人旅行者のニーズや動向を共有しながら、体験型観光や受入れ環境の整備を進めている。また、市内各所に英語・中国語・韓国語の案内看板を設置し、無料Wi-Fi環境の整備や多言語パンフレットの配布など、外国人観光客が安心して滞在できる環境づくりにも力を入れている。

### 3. 具体的な取り組み内容について

#### (1) 「西尾抹茶」を核としたブランド発信

市内の茶農家や製茶業者、観光協会が連携し、「西尾抹茶ストーリー」として地域ブランドを確立。抹茶づくり体験や茶室体験、抹茶スイーツの開発など、五感で楽しめる体験型観光を展開している。また、SNSや動画配信を通じて海外へ積極的に情報を発信し、「日本文化の原点・抹茶のまち」としての認知度を高めている。

#### (2) 抹茶の海外展開

令和7年、バンコクで開催された日泰物産展において、西尾市の抹茶業者が積極的に出展・販売を行い、現地で高い評価を得た。抹茶を使用した商品はタイのみならず、周辺のアジア諸国でも関心が高く、健康志向や日本文化への関心の高まりと相まって、販路拡大の好機を迎えている。西尾市では観光振興にとどまらず、地域産業の海外展開にもつながる実践的な取組を進めており、地域ブランドの国際的発信力を高めている点が特筆される。

#### (3) 観光案内の強化

西尾城跡や旧近衛邸といった歴史資産を観光ルートに組み込み、城下町散策と抹茶文化体験を組み合わせた新しい観光動線を構築。観光案内所では英語対応ガイドや着物レンタル、抹茶プランを提供するなど、外国人が楽しめる「まち歩き観光」を実現している。加えて、農業や地場産業と連携し、イチゴやみかんなどの収穫体験や「農家ステイ」などの体験型民泊を進め、観光と産業が循環する仕組みを生み出している。

こうした取組により、西尾市では外国人観光客の増加と地域消費の拡大が見られ、関連産業の売り上げ向上にもつながっている。抹茶を核とした明確な地域ブランドの形成は、市民の誇りや地域愛の醸成にも寄与している。一方で、観光ルートの広域連携や公共交通によるアクセス改善、多言語対応人材の育成など、今後の課題も指摘された。



### 【主な質疑応答】

(坂出市)

年間観光客目標 450 万人の根拠はあるのか。また、観光基本計画の進捗管理はどのように行っていくのか。

(西尾市)

第1次の計画が 450 万人でそれが未達成であったため今回も設定している。コロナ禍で落ち込んだが、順調に回復していることもあり、十分達成できる数値であると考えている。10 年間の計画であるので中間の 5 年間で一度進捗評価を行う計画である。

(坂出市)

発信の方法が非常に重要であると感じた。英語の動画を作成しているとのことであったが、他の言語でも作っているのか。

(西尾市)

長編動画は、英語といっても最初の字幕だけで音声が無い動画である。言葉がわからなくても伝わるような動画の作成を行っている。今年の実績の中ではタイと台湾に向けて茶摘み体験プランのコンテンツを作り、それぞれの言語で短い動画を作成した。

(坂出市)

SNS をセンス良く上手に活用していると感じた。どのように動画を作成（委託）したか。

(西尾市)

3 年間デジタルマーケティングをやってきた。1 年目はいくつか、縦型であるとか横型であるとか、あるいは県内向け、県外向け、年齢別等、試していく中で分析を行い、西尾市の勝ちコンテンツを探した。そこで鰻と抹茶が勝ちコンテンツであると判断し、2 年目はそれを流し、効果のほどを見た。目で見ただけでは弱いと感じ、体験につなげていくこと

が大切であると思った。期間限定ではあるが自分で鰻を焼いて食べることが可能とした店もある。

インスタグラム等の活用はもちろん、業者委託することにより、各国の得意な SNS に情報を載せるなど工夫を行っている。

市はLINEなどを利用し、カテゴリーごとに情報発信を行っている。例えば、観光に特化したLINEのアカウントを作成するなど。受け手側が興味を持っているカテゴリーを登録できるようにしている。

(坂出市)

国内観光者のターゲットは絞っているのか。

(西尾市)

40、50代の女性に好まれるコンテンツが多いが、若い方にも興味を持ってもらえるよう意識してやっている。鰻、抹茶は西尾市の特産であり、産地でしかできないことをPRしている。茶摘み体験や工場見学、鰻をその場で焼くバーベキューなど。

(坂出市)

インスタのストーリーの投稿頻度はどのぐらいか。

(西尾市)

イベントごとにやっている。

(坂出市)

体験はいつでもできるような感じになっているのか。

(西尾市)

抹茶については大手がいつでも受け入れられるように行っているが、鰻については最近プログラムができたばかりで、いつでもできるわけではない。将来的にはできるようにしたい。

(坂出市)

発信に関して予算はどのようになっているのか。

(西尾市)

3年間の国費をいただいて、やっておき、来年からは市費で行っていく。いくらというのははっきりとは言えないが、来年からもしっかり予算を充ててやっていく。

(坂出市)

観光協会は一般社団法人化されていると聞いたが、観光協会は市からの出向か。また人員、

規模、役割等をお聞きする。

(西尾市)

西尾市のOBが1人と旅行会社職員4人で成り立っている。観光協会は市費の補助金で活動している。

(坂出市)

報道の専門職員がいるとのことであったが、そういう枠で採用したのか。

(西尾市)

たまたま報道関係者から市の採用に応募があった。

### 【視察を終えての所感】

総じて、西尾市の取組は、地域資源を磨き上げ、それを「物語」として発信することで国内外の関心を惹きつけている点に大きな特徴がある。単なる観光地化ではなく、地域住民が主役となり、暮らしと観光が共存する持続可能なまちづくりの方向性は、他自治体にとっても学ぶべき事例である。今後、本市においても、地域の特産・文化・自然を一体的に活かし、体験と交流を重視した観光施策を進めるとともに、デジタル発信や国際的な販路拡大を視野に入れたインバウンド誘致に取り組むことが重要であると感じた。



## Ⅱ. 愛知県豊川市

<人口：186,160人、面積：161.22km<sup>2</sup>>

期日：令和7年10月23日(木)10時00分～

視察項目：インクルーシブ公園について

### 【視察目的】

豊川市は2022年3月25日、豊川公園内に従来の公園よりも、利用者の間口を広げたインクルーシブな広場をコンセプトにした「こども広場」をオープンさせた。

「こども広場」は構想段階から設計技術者や市役所の各部署などと連携し、地域の障害者団体や福祉関係者にもヒアリングを重ねて、実現した広場である。障害のあるなしにかかわらず生き生きと自由に楽しめる、安全面を意識したユニバーサルデザインを採用しており、さまざまな声や思いを反映し、遊具だけではなく、ケガを防止するゴムチップ舗装の園路や見守りベンチ、空間にゆとりのある駐車場の併設など、細かい部分にも工夫を散りばめている。

本市においても、緩衝緑地の整備、その他の都市公園の整備をしていく上で、誰もが安全安心に利用できる環境整備を行うため、視察を行うものである。

### 【説明者】

豊川市 都市整備部 公園緑地課

### 【視察内容】

#### 1. 豊川公園の位置づけと再整備方針

##### (1) 豊川公園の概要

- ・都市計画決定：昭和25年
- ・面積12.6ha
- ・位置：中心拠点として広域的な誘致を担う

##### (2) 再整備の経緯

市民プール廃止方針を契機に、公園全体の再整備計画を策定し、テニスコート増設、ランニングコース整備等を実施。



### (3) 重視すべき3つの観点

#### ①ストック効果をより高める

- ・都市公園は全国的に見ると一定程度整備されてきた
- ・今あるものをどう活用するか、という視点を重視
- ・都市公園を活性化する、また、必要に応じて再編するという考え方が重要

#### ②民間との連携を加速する

- ・公共の視点だけでモノをつくらない、発想しない
- ・民間のビジネスチャンスの拡大と都市公園の魅力向上を両立させる工夫を

#### ③都市公園を一層柔軟に使いこなす

- ・画一的な都市公園の整備はしない
- ・画一的な都市公園の管理はしない
- ・公園の個性を引き出す工夫で、公園はもっと地域に必要とされる財産になる

### (3) インクルーシブこども広場の整備方針

#### ①インクルーシブな広場とは

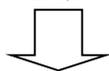
- ・個人の特性や背景などの違いにかかわらず、あらゆる子どもがともに、遊び、育ちあえる場である。

#### ②なぜ必要か

- ・これまで物理的・心理的バリアによって、公園の遊び場を利用できない人たちがいる。すべての子どもが歓迎され、地域の多様な人々が交流できる場が求められる。

#### ③どんなところか

- ・だれもが利用できる、遊びが豊かである、人や地域とゆるやかなつながりがある  
この3つを軸に、地域ニーズを柔軟に反映した広場である。



旧こども広場の老朽化・薄暗さといった課題に対応し、「誰もが一緒に遊べる広場」をテーマに整備を行った。

### (4) インクルーシブ広場の整備内容

#### ①ニーズ把握

- ・アンケート調査の他、福祉団体・教育機関・専門家と協議を重ねインクルーシブデザインを採用。

#### ②樹木の伐採

- ・薄暗い環境を改善するために、木の伐採を行った。
- ・優良木を残すために伐採・捕植を行う。200本以上伐採しつつ、良木を残す方針で再生。

#### ③遊具の整備

- ・車椅子で利用可能な複合遊具、包容空間、スイング遊具、バケット型ブランコ等を整備。特にハーネス付のブランコなどが好評である。

#### ④その他

- ・子どもが遊具から落下した際などに深刻なけがを負うことがないように、遊具の安全性領域や転落の危険がある場所は衝撃吸収性を備えたゴムチップ舗装としている。
- ・広場内には障害者、介護が必要な高齢者、妊産婦、けが人など歩行困難な人を対象としたおもいやり駐車場を整備。
- ・視力が無い、または視力が低下している人が安全に移動するために、点字ブロックを設置し、視覚障害者に配慮。



【主な質疑応答】(答弁：豊川市 都市整備部 公園緑地課)

(坂出市)

シンボリックな遊具を作らなかった理由・経緯を教えてください。

(豊川市)

公園作りのワークショップを開催し、配置や設置する遊具を検討した。遊具は一つ一つが非常に高価であるので、なるべく意味のあるものという方向性で進めた。

(坂出市)

子ども広場の再整備の全体的な予算の概要を教えてください。

(豊川市)

遊具の関係であるが、普通の遊具の2倍ぐらい。地面のゴムチップ舗装に非常にお金がかかった。整地費用を除いても6,000万円ほどで、通常2,000㎡ならば3,000万程度であることを考えるとかなり高いものである。

(坂出市)

国の補助や県の補助は入っているのか。

(豊川市)

都市公園単独の補助もあるが、中心拠点ということで旧街づくり交付金というものがある。公園だけではなく、周辺の街と一体で整備を行うことで交付金をいただき活用した。

(坂出市)

維持管理費、更新費等はどの程度を見込んでいるのか。

(豊川市)

維持管理費がかかるのは覚悟しているが、まだ大きな補修等が無いので、これからのことである。

(坂出市)

どれぐらいの木を伐採したのか。また、市民の賛否はどのようなものであったか。

(豊川市)

ほとんど意見は出なかった。大木を200本以上伐採した。切るだけではなく捕植も行っている。切る理由としては、木を残すために、木を活かすためにという方向性で進めた。また、切るだけではなく、新たな木を植えていることを説明し、問題にはならなかった。拓けたというところでむしろ喜んでいただけた。

(坂出市)

伐採した木の再利用は何本ぐらいで、費用はどのぐらいであったか。

(豊川市)

ほとんどの木を処分したが、木の再利用をPRするために一部椅子や机を作った。委託ではなく、職員が自前で作っている。4セットぐらい作製した。

(坂出市)

イベントはどのぐらいの頻度で行っているのか。

(豊川市)

年間 10 件前後は行っている。市が主催している祭りは 3 つ。民間がそれ以外にも利用している。

(坂出市)

駐車場の台数は。

(豊川市)

300 台ぐらいある。常設の駐車場 150 台に加え、イベント時は駐車場兼広場のスペースを臨時駐車場として 150 台ほど用意している。

### 【視察を終えての所感】

豊川市こども広場は、インクルーシブ公園整備の先行事例として注目に値する存在であり、政策整合性、利用実績、地域誘客性の各側面からも多くの示唆を提供しています。このような公園の設計と運営は、ただ単に遊び場を提供するだけでなく、地域コミュニティの絆を深める役割も担っています。利用者層の多様性を考慮した設計がなされているため、すべての子供たち、ひいてはその家族が楽しめる場所となっています。

多様な遊具や安全な施設が整備されていることで、安心して遊べる環境が確保されていることは重要です。さらに、他の地域から訪れる人々への誘客効果があり、地域経済へのプラスの影響も期待されます。このように、豊川市のこども広場は、インクルーシブな社会を実現するための実践的なモデルとして機能していると言えるでしょう。

本市においても、豊川市こども広場の事例を参考に、緩衝緑地や市内の他の公園の再整備を進めることで、より多くの人々が利用したくなる魅力的な空間を創出できると考えています。地域住民が主体的にかかわることができる場を提供することで、地域の活性化にも寄与するでしょう。これらの取り組みは、子供たちが安全に遊べる環境の提供だけでなく、地域全体の福祉向上や、居住者同士の交流を深める手段ともなり得ます。

今後も豊川市こども広場を参考に、インクルーシブな公園整備の研究や実践を進めていくことが重要であり、それによって市全体の魅力を高めていくことが期待されます。また、多様なニーズへの対応を進めることで、すべての市民が心地よく過ごせる環境を整えることが求められます。このような視点からも、本市における緩衝緑地の再整備や公園の再整

備は極めて意義深いものと感じています。



### Ⅲ. 岐阜県瑞浪市

<人口:34,891人、面積:174.86km<sup>2</sup>>

期日:令和7年10月27日(金)10時00分～

視察項目:企業誘致、廃校活用について

#### 【視察目的】

瑞浪市は2024年の工業立地動向調査によると、立地件数全国第3位となっており、交通アクセスの良さ等、立地条件を生かし積極的に企業誘致を行っている。廃校となった学校建物・敷地を活用した企業誘致にも成功しており、本市が抱えている問題への対応を参考とすることを目的として実施した。

#### 【説明者】

瑞浪市経済部商工観光課

#### 【視察内容】

##### 1. 「瑞浪市の企業誘致について」及び「廃校活用」について

###### (1) 瑞浪市の概要

- ・濃尾平野の北東部に位置し、愛知県に隣接する旧中山道沿いのまちで美濃焼を中心に発展してきた商業都市である。
- ・現在でも市の産業は全体の四分の一近くを占める製造業や建設業の第2次産業や、四分の三を占める卸小売業などの第3次産業で構成され、農林水産業の第1次産業は1.8%のみである。
- ・企業誘致の強みとして、交通アクセスの充実(名神高速・中央自動車道・東海環状自動車道)、強固な地盤(東農、中濃地域)、豊富な地下水(西濃、岐阜地域)が挙げられる。

## 2. 瑞浪市の現状について

### (1) 企業誘致の状況

- ・ 瑞浪クリエイション・パーク : 15.3 h a
- ・ SONY 跡地 : 21.2 h a
- ・ 旧釜戸中学校跡地 : 2.9 h a
- ・ 旧陶小学校跡地 : 2.2 h a

計 41.6 h a

※現在は、企業誘致が可能な工業用地がない状況

### (2) 企業誘致に係る支援措置

- ・ 瑞浪市事業所等設置奨励金

企業が新たに市内に事業所を新設、増設、移設し、市の指定を受けた際に5年間奨励金を交付。(支援額は固定資産税・都市計画税の合計額分)

- ・ 瑞浪市雇用促進奨励金

企業が新たに市内に事業所を新設、増設、移設し、従業員を雇用して市の指定を受けた際に1回に限り奨励金を交付。(支援額は従業員の数×15万円(上限1,500万円))

### (3) 地元での人材確保・育成策

- ・ 合同企業説明会「オール瑞浪・企業フェス」

市内の高校2年生、就職を希望する高校3年生を対象に開催

- ・ 合同企業説明会「おしごとフェア in みずなみ」

中小企業の人材確保の支援や、再就職希望者への就労支援を目的として開催

## 3. 瑞浪市の企業誘致の実績

### (1) 瑞浪市クリエイション・パーク

- ・ 概要

瑞浪クリエイション・パークは、独立行政法人中小基盤整備機構が新事業創出型事業用地として、造成・分譲を行った工業団地である。

- ・ 規模

団地面積	15.3ha
操業企業数	15社
雇用数	892名（R6.4.1時点）

## （2）SONY 跡地

### ・概要

株式会社アイシン瑞浪が跡地を利用して平成31年2月に生産を開始した。

### ・規模

面積	21.2ha
雇用数	880名（R6.4.1時点）

## （3）旧釜戸中学校・旧陶小学校廃校跡地

### ・概要

瑞浪市立中学校の統合・再編基本方針に基づき平成28年に2校を統合し、瑞浪南中学校が開校、平成31年に3校を統合して瑞浪北中学校が開校した。

市にて学校跡地を地域課題の解決や活性化を図ることを条件とした上で、公募型プロポーザル方式により民間事業者へ売却し、利活用を進める方針とした。

### ・廃校となった学校の現在の跡地利用について

#### ① 旧釜戸中学校跡地

選定業者	司企業株式会社
面積	2.9ha
売買価格	308,972千円（土地代のみ）

#### ② 旧陶小学校跡地

選定業者	大澤ワックス株式会社
面積	2.2ha
売買価格	1,000千円（土地の更地価格から建物解体費を除いた金額）

## 4. 企業誘致にあたって

### （1）地元住民や近隣自治会との合意形成

#### ・進出企業の選定

公募型プロポーザルにて選定。プロポーザルにおいては、地元を代表して自治会長等に就任いただいている。

- ・地元説明会の開催

企業の進出時には、地元説明会を開催することとしている。

- ・企業立地に関する協定の締結

周辺地域の環境への配慮や地元の雇用の創出、地域の発展に寄与いただくため、企業立地に関する協定を締結。

(2) 企業誘致後のフォローアップ体制

- ・瑞浪クリエイション・パーク企業連合会

① ボウリング大会等年1回親睦事業を実施

② 里親制度を活用した工業団地内公園の環境整備

(立地企業が持ち回りで団地内の都市公園の草刈・清掃)

③ 市等に対する要望等の調整

市は、例年5月頃に行う定期総会への参加や、親睦事業・新年互例会へ参加している。

また、地元自治会と連合会との連絡調整役も担っている。

5. 今後の展望について

- ・農業振興地域内農用地にて工業団地を造成

現在、瑞浪市には、企業を誘致可能な土地がないため、農業振興地を工業団地に転換することを計画し、現在基本計画を策定している最中である。



【主な質疑応答】

(坂出市)

本市は平成16年に水害があつて、これからは東南海地震に備え、学校のほとんどが避難所に指定されている。瑞浪市は地盤が強固であるという説明があつたが、企業に売却した学校は避難所指定されていたのか。

(瑞浪市)

指定されていた。また、企業と協定を結ぶ中で引き続き活用できるようにしていたと記憶している。

(坂出市)

住民とのトラブルはほとんどなかったと聞いているが、順調に進んだという理解でよろしいか。

(瑞浪市)

はい。そのとおりである。

(坂出市)

非常にうらやましい限りである。

企業誘致を行える土地がもう無いということで、農業振興地に工業団地を造成すると説明があつたが、農振を外すのは大変ではないか。

(瑞浪市)

近隣の自治体でも農振を外し、工業団地にした事例があり、無理ではないと判断し、進めている。

(坂出市)

クリエイション・パークについて、当初買収から入らなかったのはなぜか。

(瑞浪市)

当初、外郭団体が土地を所有しており、その時は賃貸であつた。その後、企業から市が土地を買い受け、市から各企業に売却を進めた。

(坂出市)

評価額での売却、補助金等はつけずに売却したのか。

(瑞浪市)

評価額による売却を行った。資金運用の関係で、支払いを延ばしたりなどはあつた。

(坂出市)

農業振興地を工業団地にということであったが、この場所にした理由はあるのか。

(瑞浪市)

市で土地を探している過程で、耕作がもう難しく、どうにかできないかとの相談が市民からあり、それで進めることになった。8割ぐらいの方が賛成していると聞いている。

(坂出市)

瑞浪市が造成を行うのか。

(瑞浪市)

市で行う予定である。

(坂出市)

学校の売却に際し、反発がほとんどなかったということには驚いた。学校というと、街中にあると思うが、企業に売却する際、その周辺の道路の拡張等安全対策の工事は行ったのか。

(瑞浪市)

売却に伴う市道の整備は行っていない。ちょっとした修繕程度である。

(坂出市)

地元の方の雇用の割合が多いが、何か工夫されているのか。

(瑞浪市)

特別な工夫はないが、企業を誘致するときはなるべく、地元の方を雇用するようにとお願いはしている。縛りは設けていない。

(坂出市)

旧校舎は二つとも再利用されているのか。また、プロポーザルに地元の意見は反映されているのか。

(瑞浪市)

一部を再利用している形である。審査員に自治会の代表者が入っているなのでそこで反映されている。

### 【視察を終えての所感】

瑞浪市での企業誘致の取組を聞かせていただくと、場所の確保だけでなく、地元住民や自治会との調整や協調に市が積極的に関わっていること、人材確保や企業移転時の財政負

担を抑える施策を打ち出してきていることなどは、見習う点を感じました。特に地元からの若い世代の流出を抑えるために行っている高校生への合同企業説明会に2年生から参加できるようにしていることで進路の軸に地元も選択肢として考えられるようにしている点でしょう。3年生になると多くの高校生は進学・就職の進路を決めているし、名古屋という大都市が近いただけにその進路としての魅力が選択肢の中で大きな割合を占めてくるでしょう。そこに地元企業への就職説明会をしても高校生に響いてくることは少ないのではと感じてしまいます。まだ、就職なのか進学なのかも漠然としている2年生を参加させることで地元企業に目を向けてもらい3年生になるまでの期間、興味を持った地元企業へ視線を向けてもらうことで、企業理解や興味の醸成にもつながるのではと感じました。

さらに驚いたのは、坂出市などは企業誘致の場所が無くなって土地を確保すると言えば、海を埋め立てるや山を削ることで土地を確保することにしか視線が向かわないのですが、瑞浪市は埋め立てる海もない中で、高齢化で増えた耕作放棄地や空き家に目を向けて、農業振興地域と言う都市計画や国の壁がある所でも、どうにかできないかと言う諦めない気持ちで開発の可能性を調査し、具体的な基本構想を練っていく事を進めていることは、大いに見習う点が考え・手法ともにあるように思っています。これがうまくゆけば瑞浪市は市内に12ha程の企業誘致可能な工業団地を確保できることになるのですから大きなまちの希望となりえる取組です。ただ、工場排水や騒音・大気汚染等誘致する企業によっては負の財産とも成り得ることもしっかり把握しながら、取組むことも忘れてはならない点だと感じられました。

